

報告事項ウ

第5回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について

第5回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について、別紙のとおり報告します。

平成23年6月28日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

第5回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要

平成23年6月28日
教育環境課・文化財課

第5回鳥取西高等学校整備のあり方検討会を下記のとおり開催した。

1 日時等

日 時：平成23年5月23日（月）午後3時～午後4時40分まで

場 所：県庁 議会棟 特別会議室

出席者：検討会委員10名

2 概要

第4回の意見を踏まえ、具体的な整備方法ではなく、この検討会の本来の目的である大きな方向性についての議論を行った。

3 主な意見等

(1) 文化財の保存と活用、将来の移転

長期と短期の問題を分けてほしい。長期の問題である文化財の保存や移転と、当面の学校の存在とに矛盾はない。短期の問題である文化財の活用では、市の整備計画が唯一の計画で、これと両立する学校の建替計画は、文化財の保存と活用の方針に抵触しない。長期的な文化財の保存のため、今の学校整備をやめろと言うのは矛盾である。石垣が見えて史跡の中にいつでも入れることが重要で、地下に埋めておけばいいというものではない。学校が史跡内にあることがおかしく、学校の移転が基本である。学校が出て行ってまで完全な文化財保護を求める必要があるのか。専門家の意見はそうかもしれないが、まちづくりなどの観点で、一般市民が納得されるか疑問である。第2グラウンドの礎蔵跡の価値を素人に分かるように示すべきである。専門家は遺跡全体の価値が上がったと言うが、客観的な議論がなされていない。当面の耐震改修はしないといけないが、移転のところで議論が止まっている。移転は検討するということで、将来の議論に任せてはどうか。移転先も分からないのに、学校としては移転すると言えない。共存を前提とした市の史跡整備計画のとおりに進めてほしい。

(2) 国の許可手続

教育権と文化財保護が対立しているが、1億3千万円もの税金を投入して申請直前までいったので、結末はしっかり整理すべきである。国の文化審議会を通る見込みがないから申請しないのはおかしい。審議会で議論すべきである。許可手続は文書で残すべきで、口頭ですべきものではない。申請して、不許可理由を文書でもらい、行政として妥当かどうか議論し、透明な手続きを踏むべき。現地改築は不可能となっているが、きちんとした説明が文化庁からなされるべき。申請手続きを止めないことが大切で、申請を止めたことに我々は反発している。県文化財保護審議会からの意見を受けて民主的な議論にこだわっていると思うが、民主的な手続と政治的な決断で決めるべき問題である。申請をして不許可だった場合、不許可の理由は言ってくれるのではないか。

文化庁は本件を行政指導する場合は、行政手続法により、指導の理由を文書で出さないとはいけない。

申請をして手続をきちんとしておくという意見には共感する。

今までの文化庁の発言から、現地改築の許可はあり得ないし、不許可の明確な理由が出てくるとは思えない。

鳥取市の史跡整備計画は、鳥取城跡と鳥取西高の共存が前提だが、第2グラウンドで刳蔵跡が発見されて話が変わってきた。前提に戻って、学校との共存を強く望んで、現地改築の許可申請を出すことができないか。

(3) 整備の方向性

できるだけ早く生徒の安全確保、教育環境を良くすることに異論はない。一番早いのは耐震改修であるが、学校関係者の現地改築の主張も理解できる。文化庁に申請して不許可となり、訴訟になったら、耐震改修がすぐにはできなくなる。現地改築ができないとの結論になれば、耐震改修に向かうのではないか。

保護者からの意見もあり、早急な耐震化は必要である。

耐震改修にも幅がある。耐震改修でも生徒の教育環境を第一に考えてほしい。新たにしっかり耐震改修する場合と、既に計画のある建替えて、完成の時期はそう変わらない可能性もある。

これまでの議事録を読ませていただいたが、意見を一本化するのは無理ではないか。市にとっては史跡整備が重要だが、まず、生徒の安全確保を第一に考える必要がある。まちづくりの観点からも議論いただきたい。学校と町がともに教育と町の環境を形作ってきた歴史もある。

(4) 意見のとりまとめ

文化庁に現地改築で申請するのか、それとも当面の耐震改修とするのか、この検討会で結論は出せない。教育長はソフトランディングをと言われたが、無理である。偏った意見でまとめてほしくない。対立した意見があるのだから、最終的には行政と議会を含めた政治が判断すべきことである。

この検討会のとりまとめとして、できれば一つの大きな方向性があればよかったが、それが難しいという判断で、異なる意見も記載するような報告書のたたき台を事務局で作成してもらって、次回以降検討することとしたい。

(参考)

検討会委員(11名)

学識経験者

池本 百代【鳥取女性中央会幹事、まちづくりレディース鳥取会長】

岡田 昭明【鳥取大学名誉教授、県文化財保護審議会会長】(欠席)

坂出 徹【鳥取商工会議所専務理事】

錦織 勤【鳥取大学教授、県文化保護審議会部会長】

濱田由紀子【鳥取県弁護士会副会長】

東樋口 護【鳥取環境大学副学長】

道上 正規【(財)とっとり地域連携・総合研究センター理事長】(座長)

学校関係者

青木 節也【鳥取西高等学校校長】

池内 勝彦【鳥取西高等学校PTA会長、同窓会副会長】

松下栄一郎【鳥取西高等学校同窓会副会長】

鳥取市

江本 克也【鳥取市教育委員会事務局次長】